

日本づれ日記

ALTとして小川中などで活躍中!



日本とアメリカの文化

日本に来る前は、日本語を1度も勉強したことがありませんでした。サンフランシスコから東京へ向かう飛行機の中で日本語を勉強し始め、そして今、熊本市で日本語の授業を受けています。日本語の勉強は本当に楽しく、学んだことは毎日の生活の中で役立てています。

日本語は非常に難しい言語だと思います。文の構成もほかの言語と異なりますし、話す相手が友人か目上の人かでは言葉が変わってきます。そして何より難しいのは、物を数える時に使う単語が多くあることです。しかし日本語を勉強しているおかげで、小川中の生徒たちが英語を勉強することが、いかに難しいかが分かり、その点ではとても役に立っていると思います。

日本とアメリカの文化違いは、言語のほかに食べ物でしょう。多くの日本人が、私がアメリカで日本食を食べていたかどうか尋ねますが、その答えは「Yes」。多くの人が健康的な食べ物に興

味を持つアメリカでは、日本食は非常に人気があります。特に寿司と刺身は好まれ、私はみそ汁、うどん、天ぷら、そして抹茶アイスクリームなどを食べたことがありました。しかし、これらのものを食べるためには、日本料理店に行くしかありません。わが家では少なくとも週に1度は日本食を食べていました(お気に入りにはハマチのお寿司と抹茶アイスクリーム)。

日本での生活は私にとって素晴らしい国際的な経験であり、日本文化がどれほど素晴らしいものであるかを気付かせてくれました。英語を教える立場で来ましたが私自身も学んでいます。私たちがお互いを理解し、世界平和のために異文化を学ぶことは、とても大切なことだと思います。もし、あなたがアメリカの文化や英語について何か関心があるなら、遠慮なく私に尋ねてください!



写真は、銀座と新橋の境界付近、銀座7丁目にある歩道橋です。ただの歩道橋ではありません。合計4基のエスカレーターが付いています。ちょっと興味があったので、中央区ホームページから決算委員会エスカレーター維持のため、毎年自主財源(地方公共団体が自主的に収入できる財源)で約2400万円を予算計上しているのことが分りました。地方と都心の財政事情はここまで違うものかと驚きました。などと、うらやましがって仕方がありませんね。



写真は、銀座と新橋の境界付近、銀座7丁目にある歩道橋です。ただの歩道橋ではありません。合計4基のエスカレーターが付いています。ちょっと興味があったので、中央区ホームページから決算委員会エスカレーター維持のため、毎年自主財源(地方公共団体が自主的に収入できる財源)で約2400万円を予算計上しているのことが分りました。地方と都心の財政事情はここまで違うものかと驚きました。などと、うらやましがって仕方がありませんね。

派遣職員の東京見聞録

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県市長会東京共同事務所の野村烈さんです。

万人6000万人まで減少するという予測を耳にしました。成長の時代から縮小の時代へ転換した今、財政的に厳しい、われわれ小規模自治体は、お金の代わりにアイデアで勝負です! 今後は職員に限らず、広くアイデアを募集する必要があります。アイデアを集め、誰で見ることができて、人のアイデアを改善したり、それに意見したり活用したりすることができる「アイデア銀行」(ありふれた名前ですみません)の設立なんて面白いと思いませんか?

interview - ⑧ -

ひと

11月11日~16日に三角町で行われた「第3回廃校・大岳小で美術展」。世話係を務めた士野さんにお話を伺いました。

この土地の地理、地形、風景、光は素晴らしい。子どもたちはとても恵まれています。都会やヨーロッパで優れた美術教育が行われる中、この地域の文化のともしびはまだほんの一筋の光。美に対する意識・感覚の落差を大きく感じます。小学生の時、私は絵が上手になりました。私は絵が上手な先生もいませんでした。そのような体験をしたので、田舎の子もたちに絵の素晴らしさを伝えたいと思い、この美術展を開催したので。地元の方は気付いていないかもいれませんが、宇土半島のように変化に富んだ所は極めてまれです。温和で明るいこの地区にはホッと温かさがあります。農協や駐在所が去り、ここは寂れるばかり。大岳小を活用して地区が活性化すれば、この美術展はそれまでの中継ぎ役です。来年は子どもたちはもちろん、先生方や地域の皆さんにもお越しいただき、感動を子どもたちに伝えてほしいです。

1 1つのグループ展・6人の個展を同時に開催。2 校舎の活用などの意見募集に、士野さんの文化活動向上に対する姿勢が表れています。3 元の学校の姿をいじらずに作品を展示。4 地元の人が校地の清掃・ミカン・漬け物の販売で応援しました。「野菜やまんじゅうなど、この輪がもっと広がるといい」と士野さん。



士野精二 しの・せいじ 画家。1940年生まれ。大岳小卒。美術教師の傍ら絵を描き続け、1993年大津高校教諭を退職。同年秋から1999年夏までスペイン・セビリアに在住して美術研修。熊本市在住。

市民ボウリング 家庭に情報が届くまで

古賀結美子

私たち市民の各家庭には毎月市役所からさまざまな配布物が届きます。例えば広報うき、社協だより、ボランティア便り、くすの木園便り、医療・検診など福祉関係のお知らせ、納付書各種イベント案内チラシなど、いろいろな情報提供がなされています。



各家庭に届くまでの経路を広報統計課にお尋ねしました。簡単な流れは「市役所↓区長↓家庭」となります。市役所北側入口の階段上り口に各行政区の文書棚があり、取材当日も数種の配布物が入っていました。広報うきのように大量の物は北側入口に積み重ねられます。これを

シルバー人材センターの皆さんが仕分けして区長に届けます。区長に届けられた配布物の配布方法は区によって違うのとです。私の居住区、松橋町曲野北区を一例として取り上げてみます。区長は連絡員さん(この役職名も区によって違う呼称)の所に持っていきます。多い時はコンテナ3杯分もあるそうです。連絡員さんはこれを間違いないように再確認して小組合長宅まで届けるのですが、42軒の届け先があると聞いてびっくりしました。さらに小組合に加入していない家庭もあるので、戸別配達している所が18戸あります。特に保健センターからの医療・検診の通知書は毎月のように多くあります。

私は現在、小組合長の役を受けていて、受け持ちは14戸です。いろいろな配布物は「回覧」にしますが、1日と15日発行の「広報うき」だけは連絡員さんから届いたその日に個別配布をしています。今回の取材で、各家庭に届けられる配布物はいろんな方々のボランティアの気持ちと努力によるものだというのがよく分かりました。